

指導と評価の一体化を目指して 家庭、技術・家庭

学習指導要領の総則では、「授業の改善」（指導）と「評価の改善」（評価）を一体的に充実させていくことの重要性が示されています。学習評価によって、「児童生徒にどういった力が身に付いたか」を的確に捉えて、教師は指導の改善を図ること、児童生徒は自らの学習を振り返って次の学習に向かうことができるようにすることが大切です。ここでは、1. 学習評価の進め方の手順、2. 指導と評価の計画の作成のポイントについて示します。

1 学習評価の進め方の手順

1 題材の目標を作成する

2 題材の評価規準を作成する

3 「指導と評価の計画」を作成する

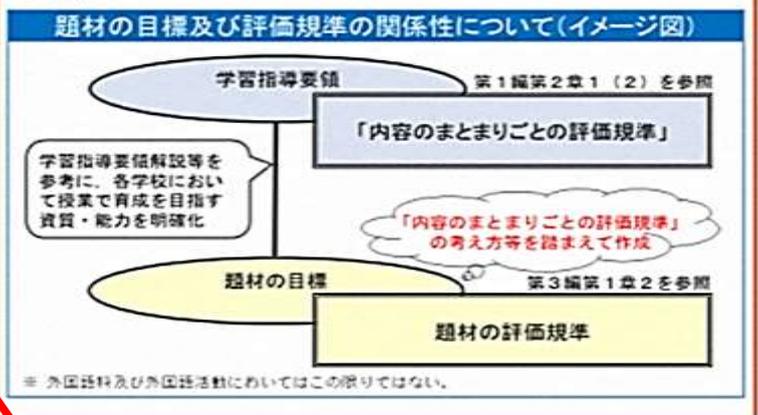
授業を行う

4 観点ごとに総括する

「授業の改善」と「評価の改善」を両輪として行っていく

- 学習指導要領の目標や内容、学習指導要領解説等を踏まえて作成する。
- 生徒の実態、前題材までの学習状況等を踏まえて作成する。

※ 題材の目標及び評価規準の関係性（イメージ）については下図参照



- 1, 2を踏まえ、評価場面や評価方法等を計画する。
- どのような評価資料（生徒の反応やノート、ワークシート、作品等）を基に、「おおむね満足できる」状況（B）と評価するかを考えたり、「努力を要する」状況（C）への手立て等を考えたりする。

- 3に沿って観点別学習状況の評価を行い、生徒の学習改善や教師の指導改善につなげる。

- 集めた評価資料やそれに基づく評価結果などから、観点ごとの総括的評価（A, B, C）を行う。

○内容のまとめりごとの評価規準とは

- ・ 内容のまとめりごとの評価規準（例）の考え方等を踏まえて作成
- ※指導事項の文末表現。「主体的に学習に取り組む態度」は、目標（3）を踏まえ作成

○指導と評価の計画を作成するとき

- ・ 評価する観点 …3観点を
- ・ 評価する場面 …いつ
- ・ 評価する方法 …どのように

○観点ごとの総括

- ・ 評価の総括例（Bの範囲：1.5 ≤ 平均値 ≤ 2.5）
- A=3, B=2, C=1とした場合、
- 知・技・・・13 ÷ 6回分 = 2.17 ⇒ B
- 思判表・・・16 ÷ 6回分 = 2.67 ⇒ A
- 主体的・・・9 ÷ 4回分 = 2.25 ⇒ B

○知識・技能の評価

- ・ 意図的な場面で、把握できる段階で無理なく評価し、後の学習活動に生かすことができるよう配慮する

○思考・判断・表現の評価

- ・ 「一連の学習過程（「生活や社会の中から問題を見だし課題を設定」し、「解決策を構想し」、「解決、実践活動を行い」、「それを評価・改善する」）に基づいて評価する

○主体的に学習に取り組む態度

- ① 知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとする側面・・・課題解決に向けて主体的に取り組んでいるか
- ② ①の粘り強い取組を行う中で、自らの学習を調整しようとする側面・・・振り返って改善しているか
- ③ 実践しようとする態度（家庭科ならではの）・・・生活を工夫し実践しようとしているか

2. 指導と評価の計画の作成のポイント

学習評価＝児童生徒の学習状況を評価（児童生徒にどういった力が身に付いたか）

- 教師が指導改善を図ること
- 児童生徒自身が自らの学習を振り返り、次の学習に向かうことができること

「家庭分野 指導と評価の計画から総括まで「知識・技能」の評価参照」

(4) ア(ア)、(イ)及びイ
(5) ア及びイ との関連

○ 題 材 名 : 健康・快適で持続可能な衣生活

○内容のまとめり:第2学年「B 衣食住の生活」(4)衣服の選択と手入れ(5)生活を豊かにするための布を用いた製作

○指導と評価の計画 (14 時間) **健康・快適で持続可能な衣生活を送るためには、どのようなことが大切なのだろう**

- [1] 衣服の一生 (衣服の選択から廃棄まで) 1 時間
- [2] 衣服の選択と着用 (課題 1) 2 時間
- [3] 衣服を長く大切に (課題 2) 4 時間
- [4] 衣服等を再利用した生活を豊かにする物の製作 (課題 3) 6 時間
- [5] 健康・快適で持続可能な衣生活を送るために 1 時間

単元	6	7	8
知識・理解	<p>○衣服の状態に応じた日常着の補修の仕方について理解し、適切にできる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校で学んだ縫い方を振り返る。 ・まつり縫いとこれまで学習してきた縫い方を比べ、まつり縫いの特徴についてまとめる。 ・まつり縫いによる裾上げ、スナップ付けなどの補修について、その目的と布地に適した方法を考え実習する。 	<p>④衣服の状態に応じた日常着の補修の仕方について理解しているとともに、適切にできる。</p> <p>指導に生かす評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・練習布 1【写真 1】 ・確認テスト <p>記録に残す評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・練習布 2【写真 1】 	<p>⑤衣服の計画的な活用の必要性について理解している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習カード
思考・判断・表現			<p>(課題 3)</p> <p>①自分や家族の衣服等の再利用について問題を見いだして課題を設定している。</p> <p>製作計画・実践記録表</p>
主体的に学習に取り組む態度			<p>①衣服等の再利用の製作計画や製作について、課題の解決に主体的に取り組もうとしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ポートフォリオ (学習の足あと) 【例 4】

○何で評価するか・・・赤太線 で評価

○どのように評価するか・・・緑太線 として評価

題材の始めに、「健康・快適で持続可能な衣生活」を送るための「題材全体を貫く課題」を設定し、課題 1「衣服の選択」、課題 2「日常着の手入れ」、課題 3「衣服等の再利用」という三つの問題解決的な学習を繰り返してその解決を図る構成としている。

- ・「知識・技能」の項目を見たときに、「練習布」で評価する機会を 2 度位置付けている。6 時間目を「指導に生かす評価」（「努力を要する」状況 (C) と判断される生徒への手立てを考えるための評価) とし、7 時間目を「記録に残す評価」とする。生徒を (B) にするために行う指導に生かす評価としている。
- ・「思考・判断・表現」における (課題 3) は、題材を貫く課題をもとに「衣服の再利用」について一連の学習過程に基づいて評価する。
- ・「主体的に学びに向かう態度」の①については、今まで学んだ衣服の選択、日常着の手入れ、衣服等の再利用を生かし、よりよい衣生活の実現に向けて、工夫し実践しようとしている場合や生活を豊かにしようとしている場合を「おおむね満足できる」状況 (B) とし、ポートフォリオで見て取る。

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 (家庭 技術・家庭)